

氏名	目 黒 俊 成
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3565 号
学位授与の日付	平成 13 年 3 月 25 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Effect of External Stenting and Systemic Hypertension on Intimal Hyperplasia in Rat Vein Grafts (ラット静脈グラフト片の内膜過形成に対する外ステントと高 血圧症の影響についての検討)
論文審査委員	教授 大江 透 教授 佐野 俊二 教授 松井 秀樹

学位論文内容の要旨

静脈グラフトが動脈循環や高血圧症によって過伸展されることがグラフト片の閉塞に関係する危険因子と考えられている。本実験は静脈グラフトにおいて高血圧症と過伸展を防ぐために外ステントを留置し長期的な効果を検討した。

頸静脈グラフト片をラット総頸動脈に端端吻合した。正常血圧ラット 65 匹、two-kidney, one-clip 高血圧ラット 55 匹のうち、内径 1.5mm のポリエチレン性外ステントを正常血圧ラット 26 匹、高血圧ラット 25 匹に留置した。静脈グラフトは術後 1, 2, 4, 8, 12, 24 週に採取した。各グループで内膜過形成が 1 週間後に認められ、24 週まで徐々に増加していた。Ki-67 抗体陽性細胞はグラフト術後 2 週目に最も増加し、その後は徐々に減少していった。Ki-67 抗体陽性細胞数および内膜過形成は正常血圧ラットと高血圧ラットとの間で有意な差はなく、高血圧症が内膜過形成や、実験的静脈グラフトに影響は与えないことが分かった。新生内膜形成と細胞増殖能は外ステントによって明らかに抑制されていた。

論文審査結果の要旨

本研究は、ラット静脈グラフト片の内膜過形成に対する外ステントと高血圧症の影響について検討したものであるが、従来十分確立されていなかった外ステントによる静脈グラフト片の内膜過形成の抑制効果に関して重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。